

事業団だより

のびる

Ibaraki Social Welfare Services Corporation

第91号
平成31年3月



あすなろの郷まで来たランナーを応援！
P3「RUNNER」記事より

利用者様と職員で
一緒に走りました！



編集・発行

社会福祉法人 茨城県社会福祉事業団

茨城県水戸市杉崎町1460番地
電話 029-259-9666

E-mail: fukusi-j@atlas.plala.or.jp
http://business2.plala.or.jp/fukusi-j/

- 県立あすなろの郷
- 県立児童センターこどもの城
- 福祉リポートセンターあすなろ

理事長あいさつ



茨城県社会福祉事業団
理事長
中島 敏之

平成30年6月、理事長に就任しました。茨城県庁での43年にわたる経験をいかしながら、新たな気持ちで職責を果たしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、茨城県社会福祉事業団は、昭和39年10月に財団法人として発足、昭和48年4月には現在の社会福祉法人への改組により、半世紀の長きにわたり、社会福祉事業を展開してまいりました。この間、「措置から契約制度へ」という社会福祉基礎構造改革や、平成29年4月の改正社会福祉法の施行により、事業団を取り巻く社会情勢が大きく変化する中、経営組織体制の見直しや事業運営の透明性の確保、さらには財務規律の強化に努めてまいりましたが、今後も経営改善に鋭意取り組みながら、利用者サービスの向上に向けて一層努力していきたいと思っております。

一方、障害者支援施設「県立あすなろの郷」は、開所から45年が経過し、老朽化の進んだ旧棟・病院の建て替えについて、茨城県など関係者が検討を重ねていますが、我々もいたしましてご利用者のご家族を第一に考え、県と協議を進めてまいります。また、新たに平成31年度から5年間、指定管理者として茨城県から指定を受けましたので、今後もご利用者の基本的人権を尊重し、生活の質の向上を図りながら支援サービスの充実を図ります。

児童センター「こどもの城」につきましては、開所以来52年間、当事業団が管理運営を受託し県内児童館の中核施設として児童の健全育成を担ってまいりましたが、平成31年3月末日をもちまして指定管理業務を終了することとなりました。皆様方には半世紀の長きにわたり、一方ならぬご指導・ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

自主事業である相談支援事業、多機能型事業、グループホーム事業を統合し平成29年度に開設した「福祉サポートセンターあすなろ」は、計画どおりご利用者を確保するなど順調に運営しております。ご利用者の高齢化・高介護化への対応や就労継続支援の工賃向上など課題もありますが、地域での生活を支えるサービスを一体的に提供することで、利用する方がより豊かな生活を送ることができまますよう支援してまいります。

茨城県社会福祉事業団は、公的性格を持つ社会福祉法人としての責任を役員一人ひとりが認識し、県民の福祉の向上に寄与する事業団としての使命を的確に把握し、利用される方の意向を尊重した総合的な福祉サービスが提供できるように創意工夫してまいりますので、今後も県民の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。



事業所キラッとトピックス

事務局

平成30年度(第41回) 実践報告・実務研究論文入賞

全国社会福祉事業団協議会主催の実践報告・実務研究論文において、佳作を受賞しました。

【入賞者】

茨城県立あすなろの郷 あさみ寮西ファミリー 支援員 市川 智子
テーマ「プライベートな時間の充実に向けた支援〜潤いのある生活を日指して〜」

集団行動や支援の拒否が頻繁だった利用者様にとって、潤いのある生活とは何かに視点をあて、日々何を思い暮らしているのかを知ることで、将来の夢や希望に近づく支援とは何かを意思決定支援に基づいて考察を行いました。



第1回障害者福祉セミナー開催

平成30年9月22日(土)、つくば市立ノバホールにおいて、社会福祉法人芳香会と当事業団の共催による「障害者福祉セミナー」を開催しました。

今回のセミナーのテーマを「高齢・認知症的障害者の支援のあり方を学ぶ」とし、この分野の第一人者である武蔵野大学准教授の木下先生をお招きし、認知症の基本的な理解、これから取り組める支援やノウハウ等についてご講演いただきました。

また、実践報告として、茨城県立あすなろの郷における、認知症の発症が考えられる利用者様への取り組み事例を報告し、参加者との情報共有を図りました。



茨城県立あすなろの郷

(障害者支援施設及び医療型障害児入所施設・療養介護事業所)

あすなろ祭

11月4日(日)「あすなろ祭」が盛大に開催されました。当日は天候にも恵まれ、利用者様やご家族、地域の方々、来賓やボランティアの皆様など約1,100名の参加を頂きました。年に一度の大イベントであり、楽しみにしていた利用者様やご家族が体育館に集まりました。

式典後の午前の部では、あすなろの郷音楽クラブに所属している利用者様とボランティアによるフラダンスが披露され、その後もトランペット演奏やハンドベル・ハープの演奏で会場を盛り上げてくれました。

午後の部は、水戸内原吹奏楽団の迫力ある演奏、ソーランドラゴンのヒーローショー、最後は水戸城東YOSAKIとソーランドラゴンとのコラボレーションで利用者の皆さんも一緒に踊りを楽しみました。

また、模擬店では焼きそばや野菜販売等が行われ、バザーコーナー



でも多くの品物を手にしている方もいてとても賑わっていました。

利用者様の閉会の言葉で「あすなろ祭」の幕を閉じました。今年も多くの皆様のご協力により無事に終了することが出来ました。

あすなろの郷ABA勉強会及び講師派遣

あすなろの郷行動支援専門員が講師となり、応用行動分析(ABA)を内容とした勉強会を開催しました。応用行動分析は福祉・保育・教育等の幅広い分野で使われており、あすなろの郷における支援の専門性向上、所外施設等への支援技術や知識の普及を目標として実施されています。今年度は、習熟度別に基礎編、応用編、実践編の3つの形態で年間14回開催し、所内外から多くの方が受講されました。また、専門的知識を有する職員の講師派遣や施設訪問などによる支援技術や知識の普及にも努めています。



福祉サポートセンターあすなろ (相談支援事業、多機能型事業(就労継続支援B型・共生型)デイサービス)・共生生活援助事業)

RUN伴

NPO法人認知症フレンドシップの「茨城まるっとオレンジ計画」として、認知症啓発のため家族や支援者、一般人が少しづつリレーをしながら、一つのたすきをつなぎゴールを目指すイベント「RUN伴」が水戸市内原地区で開催されました。あすなろホームの方では、地域住民として職員とともに約65名の方が参加しました。全行程約3.2kmをグループにわかれ担当した区間を走りました。あいにく天候には恵まれませんでした。が、雨にも負けず、風にも負けず、最後は、全員で手をつなぎながら感動のゴールテープを切ることができました。



あすなろホーム親子交流会

平成30年12月15日(土)に、水戸駅前にあるホテルテラス・ザ・ガーデンにおいて、利用者様とご家族様等合わせて、総勢約100名による「あすなろホーム親子交流会」を開催しました。西洋コース料理に舌鼓を打ちながら、カラオケ大会で利用者様自慢のものを披露したり、「おたのしみ大抽選会」等のパーティーゲームに参加するなど、平成最後の忘年会は大盛況のうちに幕を閉じました。参加された方からは、「来年も、新しい時代の最初の忘年会として、盛大なお願ひします」とのご要望をいただいております。



茨城県立児童センター「子どもの城」 (児童厚生施設 B型児童館)

キッズサマーキャンプ

こどもの城では、8月4日から1泊2日で「キッズサマーキャンプ」を行い、近隣市町村の4から6年生までの33名が参加しました。

開式の時は緊張していた参加者もアイスブレイクや夕食のカレーづくりを通して、自然に和らいでいきました。また、普段触れることがないライフセーバー体験では、初めは戸惑いながらもいつの間にか夢中になって、子ども達はとても生き生きしていました。

2日間の活動を通して、新しい友達と協力して自発的に取り組めるようになり、笑顔のままイベントを終えることができました。



ハロウィンイベント

子育てカフェでは、未就学児連れの親子を対象に、「ハロウィン巻き寿司作り」を行いました。

最初は、具材を海苔で巻いて、酢飯と交互に海苔にのせていきました。できあがりの顔を想像しながら作業していくと「だんだんできてきたね」といった親子での会話が生まれ楽しそうに作り上げていきました。そして、できあがった巻き寿司を切ると怒った顔や四角い顔など個性あふれる巻き寿司に親子で喜ぶ姿が印象的でした。



岡崎基金派遣研修

岡崎基金派遣研修は、茨城県立コロニーあすなるの初代病院長であった岡崎藤麿先生の御寄付により、職員が見聞を広め資質の向上を図ることを目的として、昭和54年から始まりました。平成30年度は、先進施設の運営や処遇技術等を学ぶため、6名の職員を派遣しました。お世話になりました施設の皆様によりお礼申し上げます。

行動障害者及び高齢知的障害者への支援

研修先 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団

出石精和園児童養育・第二成人寮

研修先 さつき寮東ファミリィ 支援員 青柳 和樹

私は11月26日から29日までの4日間、兵庫社会福祉事業団出石精和園へ研修に行かせて頂きました。研修先では主に児童養育にて行動障害や多動を有する児童及び利用者の支援について触れさせて頂いた。利用者様の余暇の充実や支援方法の統一の仕方など様々なことを学ばせて頂きました。また、口課にもたくさん工夫がされていて、今回の研修で学んだことを少しでも自分の所属にて活用し、少しでも多くの利用者様の生活に潤いを与えられるよう努力していきたいと思えます。このような研修の機会を与えてくださりまして、本当にありがとうございます。

罪を犯した障害者への支援

研修先 社会福祉法人武蔵野会

はぎ寮東ファミリィ 支援員 大貫 哲人

私は罪を犯した障害者の支援を学ぶために東京都八王子市にある社会福祉法人武蔵野会で研修を受けさせて頂きました。社会福祉法人武蔵野会は「自分を愛するようになんたの隣人を愛せよ」を理念として支援に取り組む、罪を犯した障害者支援の特別なプログラムはありますが、罪を犯したことが本人に伝えながら根気強くかかわり信頼関係の構築、行動問題の軽減に努めていました。利用者様本人からは、職員には感謝している。この生活を失いたくない。という話があり丁寧な支援の結果だと感じました。今後罪を犯した障害者の支援に携わる時には今回の研修で学んだことを活かしたいと思います。

重症心身障害児者への支援

研修先 社会福祉法人小羊学園

はら寮 主任(看護師) 植田 里香

11月19日から22日までの4日間、静岡県葵区にある「つばさ寮」で研修させて頂きました。施設の開所は、13年日となりますが、設備の充実や行き届いた清掃

によって古さを感じませんでした。また、食事においては多彩な食形態があり、入所者の安全と健康維持・促進のためには不足はないものだと思います。各業務間の業務分担は明確になっており、ボランティアや外部業者へ業務を委託することで、入所者への直接的サービスが充実していました。

この研修で貴重な学習の機会を得られたことに感謝し、学んだことを業務に活かしていきけるよう努力を積み重ねていきたいと思えます。

知的障害者への個別支援計画に関する支援

研修先 社会福祉法人佛子園

つばさ寮西ファミリィ 副寮長 黒崎 孝之

11月下旬の4日間、石川県の社会福祉法人佛子園が運営するシェア金沢でP.I.C.T.U.R.E法の研修を受けました。P.I.C.T.U.R.E法とは障害者本人の思いを引き出しながら将来像を描き、それを現実とする支援方法です。今回の研修では、ある利用者の協力を得て本人の思いを引き出すことを体験しました。本人に語ってもらうため、話しやすい場所や状況の設定、自分の話し方や声のトーンなど様々な試行錯誤をしました。さらに、P.I.C.T.U.R.E法では組織全体の取り組みが必要とされており、そのための組織改革方法も学ぶことができました。近年、本人を中心に据えた支援が大切だと言われますが、これは簡単ではなく支援者の力量と組織力が問われると痛感しました。当事業団でもP.I.C.T.U.R.E法を実践し全体のレベル向上につなげていきたいと思えます。

余暇及び日中活動の提供に関する支援

研修先 NPO法人あんだんてKOBEBE

活動支援課 主任 笹島 裕美

あんだんてKOBEBEは、主に知的障がいや発達障がいのある児童から成人を対象に、音楽を通して余暇活動を行っています。活動は、音楽療法上を主体として、利用者の演奏家や様々な講師も指導に携わっています。プロの演奏家や様々な講師も指導に携わっています。利用者は笑顔と活気に溢れており、「活動に参加し始めてから日常生活における行動や状態に良い変化が見られるようになった」と保護者様の話も伺えました。個々の意思を尊重し、特性に合わせて、皆が活動を楽しめるよう

な工夫が多く取り入れられていました。

今回の研修で学んだことを利用者様の機能維持や健康増進、そして日々の楽しみを目的とした日中活動を提供することに活かし、個人の特性を尊重しながらより良い活動を考え提供することに役立てていきたいと思えます。

平成30年度茨城県創造型国際研修

茨城県立あすなるの郷 支援員 小野 基

1月16日から10日間、茨城県主催の創造型国際研修に参加させて頂きました。

訪問地は、アジアを代表する貿易国で、先進的な施策の実験国家と称され、世界で最もビジネス展開に適した国といわれる「シンガポール」と、オーストラリア最大の人口を有し、南半球の経済・観光の中心である「シドニー」、さらに、世界で最も住みやすい都市の一つとされる「メルボルン」を訪問しました。シンガポールでは、資源に乏しい国が発展を続けていくためには、失敗を恐れず新たな取り組みを続けていくという国家運営の下で、教育、人材育成に注力している状況を、さらにITを活用したビジネスや生活、利用者のニーズを的確に反映した観光施設の取組、また、民間企業がビジネス機会を求めて事業展開している様子など、世界屈指の活気ある社会を体感することができました。オーストラリアでは、多民族・多文化国家として、民意の抽出や人間関係を重視し、行政と地域社会が一体となって進めている政策事例に触れることで、共通の理解、価値を高めていくという行政の基本姿勢を認識することができました。

この研修を通して、日常の業務で経験することのできない他国の文化や社会に触れ、多くの新鮮な気づきや国際的な視野の広がりを感じることができました。また、普段は接することのない様々な分野の職員とも交流を深めることができました。貴重な体験を得られたことに感謝いたします。ありがとうございます。



新規採用職員紹介



- ①はぎ寮東ファミリー 支援員 箱田 貴寛
- ②諦めずに最後まで頑張ることが長所です。
- ③夜釣りでヒラメを狙っています。
- ④利用者様の新しい一面を見つけることです。



- ①はぎ寮西ファミリー 支援員 大内 琴絵
- ②誰にも負けない明るさと元氣。
- ③旅行。
- ④資格取得。



- ①うめ寮東ファミリー 支援員 米川 朋秀
- ②責任感を強く持ち、仕事に取り組みます。
- ③モンスターストライク、ゴルフの特訓。
- ④社会福祉士の資格の取得を目指します。



- ①さつき寮東ファミリー 支援員 赤根 翔太
- ②忍耐力。
- ③祭囃子、草野球。
- ④利用者の皆様が笑顔になるようなことをする。



- ①つばき寮西ファミリー 支援員 大木 拓哉
- ②笑顔。
- ③野球観戦。がんばれ楽天イーグルス！
- ④適度な運動。



- ①さくら寮西ファミリー 支援員 住谷 仁美
- ②思いやりの気持ちを忘れずに、真面目に仕事に取り組みます。
- ③音楽鑑賞。
- ④新たな資格取得にチャレンジしたい。



- ①さくら寮西ファミリー 支援員 吉田 有希
- ②笑顔を忘れずに利用者様と関わっていききたいと思えます。
- ③スクラッチアート。
- ④研修等に参加し利用者支援に繋がられるように頑張ります。



- ①ぼたん寮東ファミリー 支援員 早川 邦男
- ②嫌なことは引きずらないこと。ストレスを溜め込まないこと。
- ③スポーツ観戦、近所を散歩すること。
- ④利用者様一人ひとりに寄り添う支援を実践していきたい。



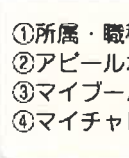
- ①あざみ寮西ファミリー 支援員 清水 真希
- ②福祉の仕事が大好きです。経験をあすなろの郷でも活かしていきたいです。
- ③息子と遊ぶこと。
- ④サボっていた手話の勉強を再開したい。



- ①地域生活支援センター 支援員 原田 優作
- ②相手の話を聞く事が好きです。
- ③友人と外食に行くこと。
- ④社会福祉士の資格の取得。



- ①ばら寮 看護師 山崎 静香
- ②利用者に寄り添える看護を心がけて頑張ります。
- ③動物の動画を見る。
- ④運動をする。



- ①所属・職種・氏名
- ②アピールポイント
- ③マイブーム
- ④マイチャレンジ（仕事・プライベート問わず）



お知らせ

この度、平成31年3月31日をもって、指定管理期間の満了に伴い、茨城県立児童センターこどもの城の管理運営を終了することをお知らせいたします。

子どもたちの健全育成の場として、昭和41年開設の「茨城県立こどもの家」の受託にはじまり、昭和56年の建替えにより新たに「茨城県立児童センターこどもの城」として、半世紀にわたり茨城県、大洗町、そして地域の皆さまの協力により運営してまいりました。

こどもの城は、野外活動を中心に、近年は子育て世帯向けの事業も行うなど、時代に合わせ様々な事業を展開してまいりました。

これまで運営をできたのも、利用者の方々と地域の協力のためものと改めて関係の皆さまに対し、厚く御礼申し上げます。

